

金魚

東京女子高師 平 島 權 藏

新緑の蔭をなつかしみ、庭に打水して端居するのが快い初夏のよい時候になりました。金魚は此頃の景物中唯一のもので、大人にも小供にも喜ばれるもので在ります。是に就て其種類と飼方の事を少しく御話して見ませう。

二、リウキン(琉金)

も强健な種類で小供や素人には飼ひ易いもので在ります。

金魚には、かなり種類が在りますが、是はもと鮎の變種即ち鮎の中から變つて出たものを、次第に變つたもの變つたものと選び出して今の様な澤山の種類が出来たので在ります。

三、ランチュウ(蘭鑄又、丸子)

是は體が短くなつて、背鰭と尾鰭とは長い美しい金魚で、琉球王から島津家の手を経て將軍家に献上したのだと謂はれて居ります。其れて琉金と名づけたのでせう。

普通によく知られて居る種類は

一、ツキン(和金)

一番鮎に近いもので此中には鮎尾のものもあり、三ツ尾四ツ尾のも在ります金魚中で最

四、オランダシガシラ(和蘭獅子頭又は單に獅子頭)

だもので背鰭は在りません。といふのは、頭に肉質の隆起の出来たもの

て蘭鑄の中から出たもので在ります。

五、デメキン(出目金)

是は、支那から來たもので慥に日露戰爭の時頃で在つたと思ひます。

普通に知られて居るものは、以上の五種で在りますが、其外にまだまだ澤山の種類が在ります。

六、シユブンキン(朱文金)

といふのも随分面白いもので和金の形に似て居て、尾が長く黒赤白などの模様が在ります。

七、クジヤク(孔雀)

和金に似て尾の開いたもの。

八、チヨウテンガン(頂天眼)

字の通り頭の頂天に眼の在るもの。

まだ澤山に在りますが略します。序に目高の種類を挙げますと。

一、メダカ(目高)

二、緋目高

三、白目高

四、斑目高

五、黒目高

等で在つて、其名の表はして居る通り色や斑によつて、名づけたもので在ります。

鮒の種類も、其色で名けたので次の四種で在ります。

一、鮒

二、緋鮒

三、白鮒

四、更紗鮒

鯉の種類は、

一、鯉(又、眞鯉)

二、緋鯉

三、更紗鯉

四、純白の鯉

五、革鯉 又、鏡鯉、獨逸から來たもの)

是は、獨逸人が眞鯉から作り出したもので、鯉は養殖するので在るから、其體には總て資本がかゝつて居るので在る。其れなのに取つて捨て、仕舞ふ鱗を作らす爲に資本を費ふのは損で在るといふ考から、鱗の無いもの無いものと、人爲陶汰を

して遂に此様なものを作り出したので在ります。

日本に現在して居る革鯉は、ド・フライン氏が來朝の時御土産として數尾持つて來たので在つたが其れが悉く雄なので、止を得ず日本鯉の雌にカケて得た合の子で在ります。

此革鯉と(日本の眞鯉との合の子の)緋鯉とをカケ合せて出來たものに

秋翠

といふのが在る、其中には實に何とも云はれぬ美しいものが在ります。背の方は、淡い藍色で次は稍々黄色に腹部は白ツぽく鰭に黄と少しく朱を帯びて居ます。

是等の魚類の飼ひ方に就て少しく御話致しませう。

一、場所は、成る可く空氣の流通の善い所、室内よりは廊下や椽側の様な所が宜しい。

二、容器は、出來るだけ大きいものが宜しい、其

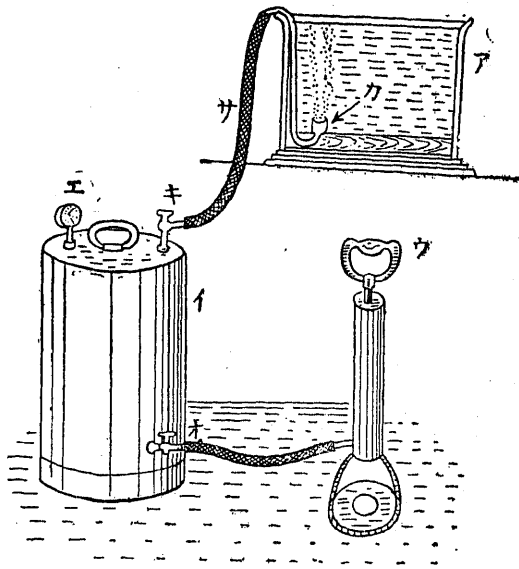
は石でも木でも金でも宜しいが、金ならば銷の出ぬ様になつたもの、又、三和土ならば度々水を取り換へて灰水アグの出ぬ様になつたもので無ければ悪う御座います。

硝子鉢などは、周圍から見えて宜しい「アクアリウム」といふて動物飼育の爲のものが大小種々出來て居ります、何れにしても注意を要するのは、空氣其は水中に溶け込んで居る空氣に注意する事で在ります。

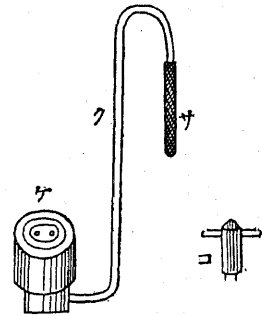
魚のむきにブクブクと空氣を送り込んで居るのは、其の爲で在ります。空氣の「タンク」を作つて其中に壓縮して置いて細い管からは是を送入する。管の先には、海綿か木炭をつけて空氣を細かくして送り込むので在ります。略圖を示します。

然し「アクアリウム」に適當の換水方法が出來る様になつて居つて換水し得るものでは此必要は在りません。此理法と必要とを覺へて居て取扱へば

間違は在りません。



圖の説明(ア)「アクアリウム」で水を入れ底には礫などを適量に入れて置く。(イ)は「タンク」で(ウ)は自轉車などに空氣を充たす「ポンプ」で在る。此ポンプでタンクに空氣を壓縮し蓄へる其量は(エ)のメイトルで知る事が出来る。十分に充填が出来たならば(オ)の活栓を閉づる。必要に應じ



て(キ)の活栓を開いて空氣を(サ)のゴム管からアクアリウムに送り込む。此時に空氣を出来るだけ細かい泡沫として(カ)から出す爲に特別の裝置をして置く。其は、第二圖に示した通り(ケ)の部分に上面に、二個の穴が在る。此穴から空氣を出すので在るが、此穴に(コ)の先きに在る二本の突起を挿し込んで逆に廻すと蓋が除かれる其中に海綿か木炭を入れて、又元の通りに蓋を螺ち込んで置くと(サ)から(ク)の管を通つて來た空氣は此海綿か木炭を通過して泡沫となつて(カ)から出て來るので在る。

適當に出して後には(キ)の活栓を閉づる。

器の大きさと動物の數とは、大に關係が在りませぬ。其は、大きな器に少數を飼へば善いには決つ

て居ますが澤山に入れて置くのは賑かて在る、此二點を參酌して考へねばなりません。

金魚では、一尺徑位の鉢に二寸位のもの二尾か三尾が適當では是位ならば幾年も飼つて置く事が出来ます。

水が濁つて水面に浮び アップ、アップをやつて居るのは、空氣が缺乏して苦しくなつたので在る。其時には直に水を取り換へてやる事、失れから鉢の中には必ず植物即ち藻の類を入れて置くのが宜しい。

産卵は、五月から六月七月にも渡ります。卵を産ませるのは、一ヶ月位前から水を取換へずに置くと次第に水に青みを生じて金魚の運動が鈍つて來ます、脂肪が殖える様になると雄が雌を追ふ様になる。然うするとは是を新しい水に取換へてやる。急に清い水になつて心地よく活潑に運動を初めます。鉢の中には藻か柳の根又は棕櫚の毛などを入

れて日當りの善い所に置くとは是に産みつけるので在ります。産んで仕舞(長さも三四時間)へば卵を親魚と別々にしなければ雄が卵を食べる事が在ります。そして卵を流さぬ様に上水だけを取換へて日當りの善い所に置くと、卵の一部に黒い點が出来「の」の字の様に見えて來ます。十日間位で孵化するが孵化の前日位には、卵の中で動く様になる。孵化當時は、皆器の底に引き着いて居ます。是れはまだ養分が重く残つて居るからで、其れが次第に二三日で自由に動く様になります。其時に、餌として茹て玉子を寒冷紗か何かで濾して與へると、水が黄色くなり次に金魚の腹が黄色くなりますが、空腹になると又元の通りに黒くなりま

す。
後には赤くなる金魚も、生れ立ては皆黒い色をして居ます。是れは前にも述べた通り金魚は、元鮎から變化させたもの、即ち人為陶汰された證據

て謂所

系統的進化の跡を個體が示して居る譯で在ります。

猶十日位立てば、ミヂンコを與へます。

金魚の運動

靜かに浮いて居る時は、時々鰭を動かしますが、全く不動の位置を保つて、靜かに浮いて居る時が在る是は腹中に在る鰾の爲めて、水の比重に合致して居るので在ります。深く沈む時は少しく、筋肉を引きしめて鰾を收縮させ、浮く時は是に反對にします。鰾の收縮は、筋肉の力によるもので、其容積の約五分の一だけ收縮する事が出來ます。即ち五分の四の容積にする事が出來るので在ります。然し猶より小さくする時には長く強く押し居ると動物性膜の鰾は、其膜から瓦斯を腹腔に排出する事が出來、又強く膨ませて大に浮き上らうとする時には、袋の中に瓦斯を製造するので在り

ます。袋の内面には瓦斯を製造する事の出來る細胞が一行に並んで居ます。瓦斯の製造が過ぎて筋肉の壓迫では急に如何する事も出來ず。心ならずも浮び上つて漁夫の利となる瀬戸の浮き鯛は、其で在ります。然し迅速に泳ぐ時には體の尾部を左右に動かして水に抵抗せしめ動力を起す、其時鰭は體側に伏着させて居るのを見ます。

金魚の澤山に居るのを見ると、常に列を作つて其内の一尾が指揮者の様に先頭に立つて居るのを見る、丁度雁の列の様で在ります。動物の群生するものは、大抵此様な風の在る事を見ます。

